

# 北穂通信 05.10.01 Vol.9

## ○ショートステイからのご報告

自立センター北穂は、ゲストの方々の「安心できる宿」又は「自立の場」を創るため、真摯に取り組んで参りました。多くのゲストの方々からご声援とご利用を頂き、順調に開所日数も増やして参りました。しかし、「初めての宿泊をお受けするかどうか」の判断は、今迄以上に慎重にさせて頂く事と致しました。

今迄もそうしておりましたが、ご本人の「状態像の把握」と場所やスタッフへの「慣れ作り」に、より一層注力させて頂きます。ご家庭に万一の事が起きた場合や保護者の方の介護負担軽減、即ち緊急対応性を損うとのご指摘を頂くやも知れませんがご理解の程、宜しくお願い致します。

実は上記のように申し上げるには理由があります。

～クレームの事例～

「8月末に初めて宿泊利用をされたゲストの方が退所後、おそらく心理的原因から、嘔吐を繰り返して食事が摂れず、通所施設を休んで入院治療と自宅療養の状態になりました。又、自立センター北穂がそのご事情に気付いたのが退所後、1週間を経過してからという事がありました。毎月々初めにご訪問しております「居宅介護計画・実績表」の為に差し上げた電話で、保護者から告げられました。我々としても、かなりのショックでした。

早速、内部及び関係機関への調査とご家庭訪問を行い、事実確認を致しますと下記の点が明らかになりました。

①嘔吐は感染症によるものではなく、おそらく初めての宿泊利用による心理的外傷によるものであろう。

(北穂に通所した時刻になると嘔吐を繰り返す)

②数回の日帰り日中利用を経験していたとはいえ、ゲストには初めての北穂宿泊は強すぎる刺激であったであろう。宿泊可の判断は早計だった。(自分の判断の甘さに痛感致しました：松原)

③利用中のご本人の変調がスタッフの認識不足により管理者(松原)まで報告が十分に伝わっていなかった。

但し、ご利用中の処遇に怠慢やミスがあったとは考えておりません。情緒不安定状態のゲストに、女性スタッフが傷を負いながらもマン・ツー・マンで対応し続けました。

この件をうけ、すぐに情報の伝達方法を改善し、全スタッフ・パートナーにゲストの方々のご様子に関して、報告・共有するよう指導を行い、実践しております。

今回の事で自立センター北穂としては、トーンダウンする事なく、反省と改善を積み上げてより一層精進して行きます。